

障害のある人のゆたかな地域生活の実現を!

よさのうみ福祉会広報紙



福祉よさのうみ

第96号

2017(平成29)年3月1日

発行 ■ 社会福祉法人 よさのうみ福祉会

〒629-2314 京都府与謝郡与謝野町字岩屋600-6

URL <http://www.yosanoumi-fukushikai.or.jp>

TEL 050(3532)0601 FAX 0772(43)0606

法人全職員研修会を開催 2016.12.17

～虐待防止を主題に～

虐待防止に関する取組み

～虐待は誰が助けてくれるのか～

弁護士 北川 英 幸



「障害者の養護者に対する支援等に関する法律（障害者虐待防止法）」が施行（2012年10月）されて4年以上が経過しました。この法の施行を契機に各種メディアなどでも多くの事件がとりあげられ虐待の実態が浮き彫りにされています。また、この法の理念や内容を周知させるための学習会、研修会の開催も多くなっています。

今回の全職員研修でも、「障害者虐待防止」という課題を中心に据えました。よさのうみ福祉会では、2013年より『虐待防止セルフチェック（全社協「障害者の虐待防止に関する検討委員会」版）』を活用した振り返りを全職員対象に実施していますが、年に1回の全職員研修ではこのセルフチェックの集約結果が分析・報告されることになっており、今回も、より理解が深まり意識が高まったのでは、という報告がなされました。

後半では、この分野に精通されている北川英幸弁護士（京都弁護士会所属）をお招きして「虐待防止に対する取り組み／虐待はなぜ起きてしまうのか」というテーマでご講演いただきました。

また、青木理事長より「よさのうみ福祉会の事業の到達について」という報告があり、『よさのうみ福祉会のめざすもの』の実現を目指す日々の取り組みが、障害者支援にとどまらず地域にとつてもなくてはならない役割を果たしていることが確認されました。

限られた時間の中でしたが、参加した職員は多くの刺激を受けたことと思います。教育研修委員会では、今後も各事業所より適切な支援が提供されるよう各種研修の場を提供していきます。

法人全職員研修会報告

全職員研修の感想は3つのキーワードから

よさのうみ福祉会の

事業の到達について

法人への誇り

青木理事長からは、よさのうみ福祉会の事業、中でもリフレかやの里再生事業、地域共生型福祉施設の運営などが、

全国から注目され多くの講演依頼や視察を受け入れていることが紹介され、こ



青木一博理事長

れら事業の先駆性について説明がありました。法人の日々の取り組みが、障害者支援に留まらず、地域貢献の役割を果たしている、と締めくくりました。

日頃私たちが、あたり前に取り組んでいることが、全国的には先駆的な役割を担っていることを、改めて確認する場となりました。

になったのではないかと分析できることは、今回まで4年にわたるセルフチェットの取り組みの成果といえます。

研修日誌より抜すい

- ・全国から注目される法人の事業は私たちの誇りです
- ・よさのうみ福祉会の一員として働けることに誇りを持ってました
- ・理事長に初めてお会いしました
- ・初めて見る職員さんが増えました。大きな法人になったなと実感する研修会です

虐待防止セルフチェット

集約結果報告

みんな同じようなことで・・・

小谷事務局長からのこの報告は、職員が日々いかに悩みながら支援にあたっていいのか、というところが読み取れる内容でした。「気



小谷勝己事務局長

付きの高まり、意識の高まりが『できていない』の比率を高めている」「今まで当たり前前、普通、当然と思ってきた支援に疑問符をつけるようになったのではなか」と分析できることは、今回まで4年にわたるセルフチェットの取り組みの成果といえます。

研修日誌より抜すい

- ・自分の支援を振り返ること気付くこと 大切ですね
- ・セルフチェットリストの自由記述コメントには共感できるものが多かった
- ・みんな同じなんだなあ わたしも同じことで悩んでいます
- ・一所懸命に悩んで良い支援にたどりつきたいです
- ・とはいってもオンオフは大切です 息抜きしましょう
- ・今後、法人としての具体的な取り組みを進める必要があるます

北川弁護士講義

良い支援は

風通しの良い職場から

北川弁護士の講演は、良い意味で頭の中で思い描く「弁護士像」を打ち破られるところから始まり、テレビのワイドショーのようにテンポよく進んでいきました。法律家としての「虐待防止」の講演ではありましたが、多くの職員が納得の表情を浮かべているのが印象的でした。

研修日誌より抜すい

- ・会場内が「明るいトーンで気さくな感じ」に引き込まれていきました
- ・北川弁護士の話し方は勉強になる 取り入れたいです
- ・良い支援は職員の高いモチベーション・メンタルヘルス向上に何でも言える良い職場だと思いました
- ・不適切な支援の延長線上に虐待がある このフレーズが印象的でした
- ・虐待通報に事実確認の必要はない これも衝撃でした

北川弁護士の言葉を

まとめて

虐待防止の一番の道は誠実な事業所の運営と支援の質の向上です。理事や管理者が先頭に立って、組織として取り組むことが必要です。

【教育研修委員 杉本 正和】



北川英幸弁護士

あたりまえに働き えられる暮らしを

障害のある人びとを支える制度づくりをめざして

◇これまでの国会請願署名

活動の歩み◇

よさのうみ福祉会の事業所も加盟をしているきょうざれん(旧称・共同作業所全国連絡会)は、1977年に結成以来、39年間休むことなく国会への請願署名運動を取り組み続けてきました。請願趣旨や項目はその時々的情勢に合わせて変わってきましたが、毎年欠かす事無く一貫して障害のある人の思いや願いを真ん中にすえた取り組みは、これまでに「精神障害者地域生活支援事業」や「小規模通所授産施設制度」の創設など様々な制度を実現する大きな後押しとなってきました。また、障害のある人の生活実態や夢、願いを立法府や行政府へ訴え、広く地域へ広げていく取り組みとして、とても大切な活動になっていきます。現在も、昨年12月より第40次国会請願・募金運動として全国各地で積極的

に取り組みが進められています。

◇情勢から見える課題◇

今回の請願署名の取り組みでは、初めて真正面から公的な介護保障制度の充実を求める請願項目が盛り込まれました。「介護の社会化」を謳い2000年にスタートした介護保険制度ですが、これまでに介護保険料の引き上げや利用抑制につながる見直しなどが続き、2018年度の見直しに向け、サービス利用料3割負担世帯の対象拡大や軽度者サービスを介護保険の枠から外すなど更なる負担増、利用抑制への見直しがされようとしています。さらに、障害福祉の事実上の介護保険への統合につながる被保険者の年齢の引き下げについても論議の俎上に上がっており、高齢期を迎えた障害のある人の暮らしを破壊しかねない大きな問題となっています。

また、国はこの介護保険制度の見直しを皮切りに、「我が事・丸ごと」地域共生社会の実現」として、社会保障全体の大きな改革に取り組みようとしています。わたしたちが長年求め続けてきた社会のあり方と合致するような言葉が並んでいます。介護保険の見直しの状況からも、国の財政を抑制することが改革の出発点であり、効率化や競争化をさらに進め、公的責任をあいまいにし、自助や共助を強いる改革になる事は明らかです。昨年の7月には神奈川県

設で19人の尊い命が奪われ社会を震撼させた大量殺傷事件が起きました。犯人の残虐な行為は決してゆるされるものではありませんが、その背景には、現在進められようとしている社会保障制度改革のような効率化や生産性重視の考え方が存在していると感じざるを得ません。

◇国の責任による

障害福祉制度の充実を！◇

障害のある人もない人も、誰もが分け隔てなく大切にされる社会の実現に向け、現在取り組んでいる第40次国会請願署名・募金運動を大きく前へ進める事が求められています。どんな人にもあたりまえに働き、えらべる暮らしをめざして。

【峰山共同作業所

管理者 山口高志】



伊根の里での取り組み

郵便局で署名をお願いします



社協で署名をお願いします

京丹後市障害者短期職場実習

障害者就業・生活支援センター こまち 相談員 大野 千鶴

京丹後市障害者短期職場実習とは

この制度は、2007(平成19)年に創設され「障害者の就労能力の向上及び社会参加の促進を図るため、京丹後市役所や関連施設等において職場実習を体験する」ことを目的としています。おもに市役所内や図書館で実習の場が提供され、一人10日間の実習をしていただきます。市役所内での実習制度は、障害のある方には貴重な社会経験の場として、京丹後市職員には障害のある方と接し、障害理解の促進に繋がる場としての役割があると実感しています。

実習は朝の挨拶から

山田良夫さん(仮名)の「おはようございます」の「声」から一日が始まります。

山田さんには聴覚障害があり、普段は手話や筆談で会話をされていますが、実習中は市役所の職員に振り返ってもらえるよう「声」で挨拶をしていただいています。職員からも挨拶が返り、奥の席からは課長が手話で「おはようございます」と応えます。

山田さんが実習で行う仕事は、啓発グッズ(チラシやティッシュ)の封入や、交通安全キャンペーン



市役所での実習風景

で使用するひまわりの種子の選別や配布準備などです。山田さんと職員とのやり取りは、主に筆談ですが、仕事の指示は、大きな付箋に大きな字で丁寧に分かりやすく書かれています。その中には、「丁寧な作業をしていただきました」と嬉しくなる評価もありました。

山田さん自身は「生活や作業内容はしんどくないが、職員の方からどう思われているのかと心配になったり、質問することや報告することにしんどさがあります。しかし、昼夜逆転はなくなり、睡眠もよく取れ生活リズムが整うようになりました。」と話されます。

実習から次のステップへ

この10年で44名の障害のある方が市役所内での職場実習を体験し、13名の方が就職に繋がっています。また、朝の一コマの様子で紹介したように、実習生を受け入れていただく職場や職員の方々が積極的に関わり、様々な工夫していただいている事がこのような大きな成

果を生む要因だと思えます。

制度が創設されてから、今年度で10年を迎えました。創設当時は、全国的にも珍しい先駆的な取り組みでしたが、京丹後市に次いで、与謝野町役場でも同様の制度を創設されています。

制度が広がる背景には、障害の多様化が進み、障害者手帳を持つ方だけでなく、引きこもりだった方や就職が困難な方の相談が増え、このような方々へ社会参加の場を提供する制度が必要との認識が高まったことが考えられます。今後、も更に充実した制度への発展を期待します。

支援センターろむ 自立訓練事業

「学びの場 きらり」第3回実践報告会

- 日時 3月4日(土) 9時30分～12時30分
- 会場 アグリセンター大宮 第1会議室
(京丹後市大宮町口大野 228-1)
- 内容 仲間5名から1年間の活動報告
- 講演 「青年期の学びについて考える」小畑耕作氏
(きのかわ福祉会理事長・大和大学教育学部講師)

問合せ: 0772-68-3377 (担当: 宇治川)

各地で 成人を祝う会

【夢織りの郷つむぎ 1月17日】



与謝野町エリアで成人を迎えたのは夢織りの郷「つむぎ」に通所されている女性利用者1名でした。『成人を祝う会』は成人者の紹介から始まり、職員が作成したスライドショーが映し出され、家族からの温かいお手紙、支援学校の先生方からのメッセージ、「つむぎ」自治会長などたくさんの方がお祝いの言葉を贈りました。ご本人は照れた様子ですが、とても嬉しそうな笑顔でした。

最後に全員で「栄光の架け橋」を歌い、利用者・職員の暖かい拍手とともに退場され、『成人を祝う会』を終えました。

20歳という節目を迎えたことをみんなでお祝いする、笑顔と温もりに満ちた行事でした。

【支援員 平井 阿子】

【すまいる 1月19日】

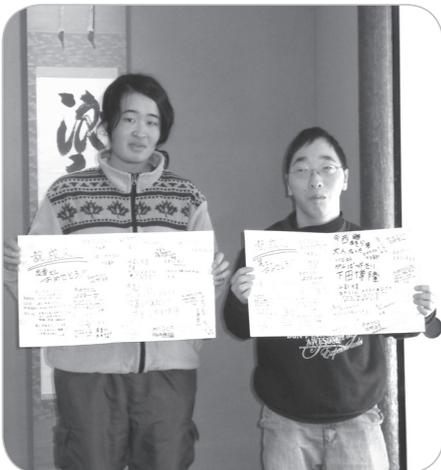
新成人は村中亨次さんです。スーツにネクタイを締めた村中さんは、素敵な好青年!! 始めはとても緊張していましたが、コーラで「乾杯!」をするとすっかり落ち着き笑顔がこぼれます。お気に入りのDVDがプレゼントされるともっと笑顔に!! 恒例の質問大会で好きなタレントを聞かれると最高の笑顔がはじけました。

お母さんの手紙からは、村中さんにやさしく愛情をかけて育てられた事や、成人された事を誰より喜ばれていることが伝わってきました。村中さんも、「これからもすまいるで、毎日仕事を頑張って一般就労したいです。」と、力強く夢を語ってくれました。村中さんの大人の仲間入りを、すまいる全員で祝福する日となりました。

【支援員 泉 洋子】



【ゆうゆう作業所 1月25日】



1月25日、皆が楽しみにしていたゆうゆう作業所の新年会が行われました。その中で成人を祝う会も行い、今年成人を迎えた2人の仲間のお祝いをしました。2人の所属する班の職員より、お祝いの言葉と記念品、仲間からのお祝いの寄せ書きがそれぞれに贈られた後、2人から成人を迎えるにあたっての決意の言葉をいただきました。

今西晃さんはふだんのやさしい表情をきりっと引き締めて「班の皆を引っ張っていけるリーダーになれるように頑張りたい」、谷井友香さんは少し恥ずかしそうにしながらも「くりくり販売に行けるように頑張りたい」との気持ちを発表しました。皆からあたたかい拍手を送られると、照れながらも嬉しそうな笑顔が弾けました。

【支援員 小北 亜希子】

「僕、50年生きてきたんだなあ」

今年のお正月に二人で「おめでとう。今年もよろしく」と乾杯した後の一言でした。

この子が生まれて1年間通ったお医者様からは「発育遅延でしょう」と言われ、また別のお医者様からは「脳性小児麻痺でしょう」と言われました。

それからもう50年になります。

今日まで大変大勢の方々にお世話になりました。特に、療育センターの職員さん、養護学校の先生、施設の職員さんには、本当におんぶにだっこでした。

夢織りの郷ができるもう20年以上も前に共同作業所の全国大会に参加して「わたしたちは、もう10年も施設をつくる運動をしています」と発言したら、「そんなところは、どこにもありませんよ」と一笑されました。でも、親亡き後の施設は絶対に必要だと、チャリティ美術展やバザーなど様々な取り組みをしました。親

「親の心、子のココロ」

夢織りの郷家族会
和田 由貴子

たちも若かったです。がんばりました。明るく笑って暮らせることが私の願いでした。そんな夢織りの郷もできて20周年になると聞くと感慨深いものがあります。

子を育てるのは親ですが、今日まで育てられたのは私自身だと思っています。

わが子、泰宏は、人様から頂いたものを食すとき、「ありがたいなあ、〇〇さんのおかげだなあ」「ありがとうは感謝の気持ち」と言います。

昨年、国や府、町の皆様方にご尽力いただき、念願だった夢のような「菜の花ホーム」に入れていただきました。とても良くしてくださる職員さんたちにお世話いただき、日当たりが心地よい部屋で「楽しいでー」と過ごさせていただいております。

今、親として健康でいることはもちろんですが、私が出ることでお役に立てることが何かあれば、と思っている今日この頃です。

夢の一人暮らしへ
アパート型ホーム
「ハイツゆいまーる」スタート!



「ひとり暮らしがしたい!」
障害のある人の夢を叶えるアパート型ホーム「ハイツゆいまーる」が11月30日に工事を終え、本年1月からスタートしました。

「ハイツゆいまーる」は菜の花ホームと同一敷地内に併設し、各居室にトイレ、浴室、簡易キッチンを整備したワンルームマンション様式のホームです。共有のリビングもあり、希望される方には食事を提供します。すぐそばに、菜の花ホームがあり、緊急時の対応や相談にもものごとができます。定員は10名で、一室は体験利用もできます。
入居者は一人暮らしやきょうだいで

で生活されていた方で「将来を考えると一人での生活が不安だから」「ハイツゆいまーるで暮らす中で生活力と自信をつけ、一般のアパート生活を目指したい」など思いは様々です。日中は与謝野町エリアの事業所や一般企業などに通勤し、夕食は共有のリビングでおしゃべりしながら食事を楽しむ方や自室でゆっくり食べる方など個人の希望にそった時間の過ごし方をされています。「一人暮らしだけでなく必要なら仲間や職員と一緒に」の距離感が暮らしやすさにつながっているようです。

今回の岩滝地域のホーム開設にむけては、バザーや募金など地域の方には多大なご支援を頂き、障害のある人の夢を実現することができました。本当にありがとうございました。

“夢いっぱいフリーマーケット”のお知らせ

☆日時 4月2日(日) 10時～15時
雨天時は、4月9日(日)に順延

☆会場 野田川わくぱる横多目的広場
掘り出し物がどっさり、模擬店もあります

★連絡先 夢織りの郷 0772-43-0380

福祉会 リレー随想



山口 郁子

ワークセンター「花音」主任

「人に優しく、自分にやさしく」そんな生き方をしたいです

「還暦」を迎えた私

とつとつなんと60歳「還暦」を迎えました。自分ではまだまだ若いつもりですが、「還暦」を迎えて少しショックを感じていた私に姉から「登山家の田部井淳子さんが『60歳は人生8合目、8合目からは面白い』とテレビで言うところれたよ」と電話がありました。「そうなんだー8合目からか…」その言葉になにかしら勇気をもたらした私です。

私は、ずっと人と関わる仕事をしてきました。障害があったり、社会的弱者の方の力になりたい…とご本人やご家族の相談に乗ったり一緒に悩んだり、迷い悩みながらの支援をしてきました。支援した方が笑顔になったり少しでも元気になっていく事を実感した時に、実は私自身が救われ成長させてもらってきたなあと思っています。

この仕事をここまで続けてこられたのは、私の生い立ちが大きく影響しています。きょうだいが障害を持って生まれたことです。今から50年ほど昔のこと、「当時の言葉で」びっこ、びっこと差別され、小学校の行き帰りに石を投げられてバカにされた時代でした。幼い私は、「何でバカにするのだろう…」と腹が立つてその子の家まで行って親に抗議をした覚えがあります。人権を侵されたり、差別されたりしている人を何とか救いたいという気持ちがかつと湧いてくる、私の中の信念のよつなものです。

私がおつちよこちよいでおしゃべりで正直あまり賢くないですが、人が喜んでくれることが私の喜びになり、人の悲しみが自分の悲しみになるという取り柄があります。

「人に優しく、自分にやさしく」は、私の好きな言葉です。今から8合目を目指して登ってくる人に8合目でしか出来ない優しさを届け、8合目まで登ってきた私をちょっと褒めて、自分を優しく眺めて行くつもりです。

※次回は、みやづ作業所 主任 濃野暁生です

ご寄付御礼

みなさまからのご寄付、誠にありがとうございました。2016年12月21日

2016年12月21日

2017年2月10日

(順不同・敬称略)

- カトリック丹後教会宮津教会堂
- 日本キリスト教団丹後宮津教会
- 楠田 均 千原裕子
- 西馬香織 山崎 清
- 小谷美和子 浜田 正人
- 的場治道 島田やよい
- 石田栄男 尾上真由美
- 仲川晃海 日下部みはる
- 濱中哲也 西垣三衛子
- 田中祇子 岩西一男
- 浦島久美子 中西光昌
- 青木一博 橋川健祐
- 小長谷たまゑ 北仲町子
- 家原敏彰 細見恭子
- 松田みよ子
- 一念寺仏教婦人会
- 丹後織物工業組合
- 理事長 渡邊正義

その他匿名でもたくさんのご寄付をいただいております。

編集後記

もつすく3月11日を迎える。被災地域では復旧・復興の動きが懸命に進められている。しかし福島は、東京電力福島第1原子力発電所爆発事故による深刻な状況があの日から6年を迎えるが今なお変わらない。

帰還困難、居住制限、避難指示解除準備の区域に地域が分断され、今なお8万人以上の方が県内外に避難されている。関連死問題も深刻だと聞く。福島は2014年以降人口比で突出した自殺者が発生していると報じられている。住居を追われ、仕事を奪われ、コミュニティが分断崩壊され、先が見通せない、深まる孤立などがその原因ではないだろうか。

日本では今、川内、伊方2か所の原子力発電所が再稼働している。福島の教訓は生かされているのか。原発爆発事故から6年を迎え、私たちはあらためて福島に関心を持ち続けなければならないと思う。

(お)

～作業所開設40周年～

宮津で育って40年。 泣いて笑ってまた大笑い



銀シャリ

M-1グランプリ王者！

Wヤング

ベテラン漫才を心ゆくまでお楽しみ下さい。



総合司会

百鳥 秀世

FM京都 ラインキャスター
ニュース・ナレーションはまさに大人の読み、でも実は、おちゃめな三枚目。



もりやすバンバンビガロ

若手芸人 今日も見せてくれます。

1976年に仲間8名、職員1名で、産声を上げた「宮津共同作業所」。地域の皆様方に励まされ、支えられ40周年を迎えました。開設当時の関係者の皆様の熱い想いを受け継ぎ、障害のある方達に豊かな生活を保障する事を目指し、「みやづ作業所」「すまいる」と名称は変わりましたが、今日まで事業を継続させてきました。

開設40周年の節目としてこれまでの歴史を振り返るとともに、また新たな歴史を作っていく第一歩としてイベントを企画いたしました。「宮津で育って40年。泣いて笑ってまた大笑い」と名付けたこのイベントには、地域の皆様からいただいたたくさんの笑顔に対する感謝と、今後一緒に笑いあおう！という思いがこめられています。

平成29年 **3月19日(日)**

開場 午後1:00 開演 午後1:30

【会場】 宮津会館

〒626-0041 京都府宮津市鶴賀2164

※車でご来場の方は、浜町立体駐車場（パーキングはままち）をご利用下さい。（5時間以内の駐車無料）

【入場料】 無料

満席になり次第、入場を制限させていただきます。

主な予定演目

“作業所仲間” 太鼓・構成詩・うた

“宮津高等学校吹奏楽部” 演奏

“お笑いステージ”

・もりやすバンバンビガロ

・銀シャリ

・Wヤング

“みんなでうたおう♪”

<お問い合わせ>

社会福祉法人よさのうみ福祉会みやづ作業所 ☎0772-22-7254

社会福祉法人よさのうみ福祉会すまいる ☎0772-22-1933